



3月 園長便り



2017年3月1日発行

セブンスデー・アドベンチスト石川教会付属 石川三育保育園

寒さも一段落し、ようやく桃の節句の季節となりました。保護者の皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。

今月はサインズ月刊誌 3月号から気になる記事を二つ拾ってみます。

一つは米国在住の財務担当役員ティモシー阿嘉が書いた「彼らはあなたの家で何を見たか？」という記事です。今の時代の流れがおかしくなっている米国を解説しながら私たち日本人が取るべき行動は何なのか教えています。その中でも私が気になったのは彼がこう記したところです。「重要なことに、私たちの子どもは家の中で何を見ているのでしょうか。忙しく走り回り、お金を追い求めて全エネルギーを費やしている姿でしょうか。生活費を稼ぐための日々の骨折や心配で疲れ果てた顔でしょうか。」それは私たち日本人が西洋の豊かな物に憧れていった姿です。そして、彼はこう締めくくっています。「私たちの子どもは、私たちが言うことよりも、私たちの生き方から多くを学んでいます。」物だけを追求するあまり、中身の無い世界を作り上げていき子供にもそう教えている私たちがそこにいるのです。大事な中身、信仰、希望、愛のある人生を子どもたちには見せたいものです。

二つ目に気になった記事は心理カウンセラー岩田明子さんが書いた「やる気生まれる場所」からですが、この先生は連載で「アルプスの少女ハイジに学ぶ一心と体が元気になる方法」ということで毎月書いています。気になったところは「幼い子どもはまるで魔法使いのように、始まりの火種を、毎瞬、毎瞬、創り出すことができます。その発想は、奇想天外に思えることもあるでしょう。でも、その始まりの火種がなければ、物事が未来へ向かって動きはじめることもありません。」私たちの後押しがあってこそ才能は開花するのです。別の個所で「子どもは“瞬間”に生きる達人です。いつでも自分のやりたいことが湯水のように湧いてきて、心はやりたいことや好奇心でいっぱいです。ところが学校に行き、社会人になるにつれて、人は自分のやりたいことを抑えて、社会が要求することを優先できるように鍛えられていきます。」学校や社会に出て行くと当然色々な制限があります。次第に自分のやりたいことよりも、相手の要求が大きくなっていくとそのバランスが崩れてしまいます。子どもにもっと自由に才能を開花させるためにも「今、何をしたいのか？」と問いかけることが大事だということです。著者はこう締めくくっています。「おじいさんは、不機嫌ながらも、まずはハイジの要求に耳を傾け、ハイジの要求を肯定してくれました。すると、そこには思いもかけないかたちで、心を開いて、やりとりのできる安全なスペースが生まれたのです。相手をコントロールするのでも、相手に期待するのでもなく、相手の存在そのものに純粋に関心を注ぐことで、未来へ続く扉は開かれ、新しい関係性が生じるかもしれないということ」

です。今日も幼い子どもたちのために神様からの幸せを求めてお祈りします。

園長 富浜宗言

